

令和3年度 学校評価 中間報告 (各部・分掌の取組)

【重点目標 1】

授 業 づ く り

- ・ 新学習指導要領に基づき、新しい教育課程を実践し評価する。
- ・ 12年間の学習の系統性を検証し、生活単元学習を中心に年間指導計画を見直す。
- ・ 常に専門性の向上に努め、発達段階や年齢、特性に応じた授業を展開する。

担当	具体的方策	取組経過と今後の課題
小学部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学年主任者会の中で、優れた実践を取り上げ、共通理解を図る。それぞれの学年のよいところを学び合うことによって、部全体の底上げを図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学年主任者会では、コロナ対応等、喫緊の課題についての検討に時間を要し、これまで個別の指導計画等について話し合う時間を設定できていない。ただ、音楽や体育、生活単元学習などの学年全体で活動する学習に関しては各学年で3観点による目標設定が行われており、学年内で共有が図られているため、今後は教務主任と相談しながら学年間で情報共有する機会を設定していきたい。
中学部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の発達段階や特性を把握し、それに応じた授業内容の充実を図ったり、教材・教具や環境設定などの工夫を行ったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習計画において、3観点に基づく目標を挙げて内容を検討、授業実践を行った。生徒の取組についての情報共有をして授業改善・評価も行った。引き続き実践を積み重ねていく。 ・ 自立活動のプロフィール表を基に学年グループで中心課題、重点目標を検討し、職員間で共有できた。後期には各学年グループの実践報告会を行って部内での情報共有を図り、各教科などとの関連についても検討を進める予定である。 ・ 部内の教育課程検討会において、各学年の作業学習の実施状況について情報交換を行い、今後の課題と方向性を確認した。後期には具体的な作業種目とその試行に向けて検討を進める。 ・ 学年主任者会で生徒用タブレットの活用について情報収集し、活用に向けて準備を進める。
高等部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昨日より今日、もっといい授業のために準備や検討を密に行う。 ・ 自立活動、総合的な探究の時間、生活単元学習、作業学習の年間指導計画、指導体制、指導内容の改善を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の課題を共有しつつ、題材設定や教材の工夫に取り組んでいる。 ・ カリキュラムマネジメントの視点で、会議等を活用し検討を重ねている。今後は、その成果等を具体的にまとめ、次年度からの授業の充実を図る。

<p>教務部</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各部の教育課程や教務関係書類の理解を深め、授業力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度から個別の指導計画の様式を変更し、学習評価を軸に授業の質を高めることができるよう取り組んでいる。單元ごとに目標や評価、改善点の共有を図る職員が増えた。 授業づくりの成果や課題などを部内で共有する機会を設定する。部全体で新学習指導要領に基づいた授業を行えているかを検証し、職員全体の学習評価への意識向上を図っていく。 研修部の取組（生活単元学習の年間指導計画について）と連携し、各部の教育課程検討会を軸に生活単元学習で「何を学ぶか」について、今後さらに検討を進めていく。
<p>研修部</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「いきジョイ（校内研究）」に全校で取り組み、生活単元学習の年間指導計画について全職員で共に考え、学び合う中で、専門性の向上を図る。 職員が部間のつながりを意識しながら、子ども一人一人の指導や支援について考え、実践できるようにサポートを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 各部署で生活単元学習の年間指導計画づくりに取り組んでいる。 教務部と連携し、年度当初に職員全体に向けて生活単元学習についての知識を深め、共通認識をもつ機会を設けて研究を進めていくことができるようにした。 今後は、検討した成果や職員自身の気付きなどを部内や学校全体で共有することで、生活単元学習の授業づくりに生かしていくことができるようにする。 部を越えて自由に授業参観できる期間を年間2回（第1期：10/25～11/12、第2期：1/24～2/10）設定し、実施する予定である。 校内ネットワーク等を活用した情報発信を積極的に行い、職員が互いの授業を見合い学び合うことができる雰囲気づくりをしていく。
<p>自立活動部</p>	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の特性に応じた支援につながる研修会や情報交換を行い、教員の専門性の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 選択研修会では外部専門家による「知的障害特別支援学校における自立活動について～課題の整理と焦点化～」の研修を実施した。実施に当たっては、コロナ対策として会場を3か所に分け、教育工学部の協力を得ながら Teams を使って実施した。ワークショップでは、課題同士に関連を付けながら中心課題に迫っていくことや3年後を見据えた指導仮説の立て方などを行った。一人で考えるのではなく、チームで考えながら支援を共有することの大切さを職員間で共通理解することができた。 「自立活動だより」では、小中高それぞれの自立活動の時間の指導の実践例の紹介を掲載した。また、自活相談報告では、一つ一つの相談事例を紹介した。これらを通して、日々の支援の参考になる情報を提供することができた。

自立活動部	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の特性に応じた支援につながる研修会や情報交換を行い、教員の専門性の向上を図る。 ・児童生徒のより良い支援につながる自立活動プロフィール表について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・より良い支援につながる「自立活動プロフィール表」はどのようなものがよいかを自立活動部や教務部、進路指導部などと協働して話し合いを行った。また、自立活動部員は、研修会を通して課題関連図の作成方法や校内での実施方法についての研鑽を図った。今後も検討を重ね「自立活動プロフィール表」の様式やその活用方法について検討していく。
施設内教育（東名古屋病院）	<ul style="list-style-type: none"> ・友達や教師と関わり、日常生活が豊かになる授業を実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新単元を起こし、教材を制作しながら授業を実践している。改良点を共有したり、継続して教材の工夫に努めたりしていく。 ・いきジョイを中心に生活単元学習の年間指導計画の見直しを進めている。次年度、効果的に指導できる内容を整えていく。 ・病棟の方針を受け、授業参観懇談会を中止した。代替えで実施できる方法を探ったり、今後の学習活動についても安全に実施できるよう連携を取ったりしながら進めていく。

【重点目標 2】

安全で安心できる
環境づくり

- ・ 最新の情報に基づき、感染症対策を徹底する。
- ・ 病気や事故、災害に対する緊急体制を全職員で見直し、徹底を図る。
- ・ 一人一人がより豊かな生活を思い描き、その実現に向けて関係機関と連携を図る。

担当	具体的方策	取組経過と今後の課題
生活指導部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 病気や事故、災害時の対応について、今までの取り組みを整理、検討し、対応や行動の仕方について職員間で共通理解を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 緊急時や災害時の対応や行動について、校務部会や担当者会で意見交換を行い、訓練や研修を進めてきた。今後は、各反省を踏まえ、実際の行動の仕方について分かりやすい形にまとめる予定にしている。非常食については、見直しを行い、9月より新しい形で備蓄を始めた。
進路指導部	<p><小学部></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 職員向けの進路に関する勉強会を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 10月に小学部の保護者を対象とした研修会を予定している。中・高等部の授業風景や作業学習の様子が分かる動画を作成したり、作業製品を各作業班から集めたりすることを計画している。

進路指導部	< 中学部 > ・保護者に向けて進路に関する情報を提供する。	・1月に、1, 2年生対象に進路情報連絡会を予定している。2年生の連絡会では、卒業生の保護者を招き、進路決定までの経験談を踏まえた講演会を計画している。
	< 高等部 > ・産業現場等における実習の実施を増し、進路を考える機会を増やす。	・今年度は、高等部2年生の生徒全員が1月に校外で実習できるように、夏季から実習先の開拓を行っている。新型コロナウイルスの感染状況によっては、延期や中止も検討していく。
保健体育部	・児童生徒が、健康に関する知識を身に付け、自主的に健康生活を送ることができる資質や能力の育成を図る。	・新型コロナウイルス感染症に伴う対応は、全校体制での取組として、児童生徒とともに教室の換気やマスク着用、手洗いと手指消毒、集団の密集を避ける工夫など適切に対応できている。保健室からも検温結果で体調の変化に対応するなど、早期連絡体制も充実してきた。今までも「緊急事態宣言」等の発表ごとに確実に安全な対応を検討してきたが、これからも安心できる学習環境を整えることを優先して取り組んでいきたい。
教育支援部	・児童生徒の支援において、相談資源の活用を広げ、関係機関との連携を図る。 ・小・中学校・高等学校や市町のニーズを収集し、ニーズに応じたサポートや情報発信を進め、地域との協働体制を構築する。	・学校外部の相談資源として、豊田市子ども発達センター臨床心理士、スクールソーシャルワーカー（SSW）、スクールカウンセラー（SC）、外国語支援員と連携して相談会、支援会議を実施した。各ケースの相談内容や経過等を事例としてできる範囲で情報発信し校内で共有し、さらなる活用につなげたい。 ・地域の小・中学校の教員対象の研修会では参加者のニーズに応じた内容を設定し、本校職員が講師となり行った。高等学校の教員を対象にした研修会では外部講師を招いて、高等学校に在籍する発達障害のある生徒の理解・対応についての研修を実施した。巡回相談等で訪問した地域の学校について、今後アフターフォローを進めていく予定である。

【重点目標 3】

働き方の改善

- ・一人一人が自らの働き方を見つめ直し、計画的に業務を進める。
- ・「あたりまえ」と思っている業務を目的に合った内容や進め方に見直し、実践する。
- ・職員一人一人の生活や働き方を認め、支え合う職場づくりを進める。

担当	具体的方策	取組経過と今後の課題
小学部	・部内や校内の業務改善に向けたアイデアを募集し、関係部署と実行可能か検討する。 ・各学年内で効率的な業務の進め方を工夫した事例等を、学年主任者会や部会の場で紹介する。	・業務の削減には至っていないが、次年度に向けて日課や部内の会議などについて、関係者と相談しながら、簡素化可能か否かを検討している。今後は、業務改善に向けたアイデアを広く募集し、私案（試案）を示し、検討を重ねていきたい。

<p>総務部</p>	<ul style="list-style-type: none"> 職員室内の文書及び物品の整理整頓を行い、物の位置や表示を改善することにより、仕事の効率化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員室内の文書及び物品の位置を決め、分かりやすい物の位置や表示にしているところである。また、必要な文書や物品がサーバ上で確認できるようにしている途中である。今後、無理なく進めていく。
<p>教務部</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教務関係書類に関してできる限り遺漏や遅延なく業務を進められるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ネットワークを活用し、各教務関係マニュアルをいつでも確認できるようにしたことで遺漏や遅延なく業務は進められている。昨今、学習指導要領の改訂に伴う多くの教務関係書類やシステムの変更があり、多忙を感じる職員が多い。個別の教育支援計画を中心に見直しを進めていく。
<p>教育工学部</p>	<ul style="list-style-type: none"> 校内サーバの整備及びデータの整理を進め、必要な情報が利用しやすい環境づくりを行う。 ICT機器の整備及び設定を進め、利用可能な状態を維持する。 	<ul style="list-style-type: none"> データ整理についてチームでの話し合いを経て、ルールを決めた。データ移動に必要なサーバの環境づくりを進めている。 生徒用タブレットにリクエストのあったアプリケーションをインストールすることで、授業での利用を促進することができた。Teams を利用することで、充電や日常点検の周知が徐々に浸透してきている。